

こんしゅう し
今週のことば「イエスの死」

せいしょ ふくいんし
《聖書》マルコによる福音書14:1-15:47

し じゅうじか けい いじゅうせいじ
イエスの死は十字架刑である以上政治
てき じゅうじか けい はんぎやく
的なものです。十字架刑はローマの反逆
しゃ たい しよけいほう じ しん
者に対する処刑法なのです。イエス自身
がどう思っているとも、支配者の側に
はんせいふ うんどう おとこ
してみれば、反政府運動をしている男と
み
見えたのです。

じ しん かんが
では、イエス自身はどのような考えで
こうどう じ ぶん
行動したのでしょうか。イエスは自分か
らすすんでメシア（キリスト）であると
はつげん また
発言したことはありませんでした。又、
とうじ し はいしゃ ぐんたい う
当時の支配者であったローマの軍隊を打
やぶ あたら くに つく かんが
ち破って、新しい国を作ろうという考え
も
も持っていませんでした。

とうじ せいじ しゅうきょう
イエスは当時の政治と宗教のしくみに
さ べつ つみびと
よって差別され「罪人」とみなされてい
ひとびと とも じんげん じんげん
た人々と共にあって、人間が人間として
い もと つづ
生きることができるよう求め続けました。
けっか さ べつ
しかし、その結果差別をつくりだしてい
とうじ し はいしゃ ひ ほん
る当時の支配者たちを批判することにな
りっぽう ろんそう しんでん
り、律法についての論争や、神殿につい

ろんそう はってん
での論争に発展していきました。

ことば こうどう とう
このようなイエスの言葉と行動は、当
じ し はいしゃ み
時のユダヤの支配者から 見れば、エ
しんでん ちゅうしん たいせい
ルサレムの神殿を中心にした体制をくつ
う
がえそうとするものと受けとめられ、又、
し はいしゃ み むんぞくどくりつ
ローマの支配者から見れば、民族独立の
うご う
動きとして受けとめられました。こうし
し はいしゃ かんが せいじ ほん
た支配者の考えにより、イエスは政治犯
じゅうじか ころ
として十字架にかけられて殺されました。

せ かいじゅう くに
このようなことは、世界中のどこの国
お じ ぶん せい
でもしばしば起こることです。自分は政
じ かんしん しちゅう ひとり ひと
治には関心がないと主張し、ただ一人一
り じんげん たいせつ もと
人の人間を大切にしていこうように求めて
こうどう ひと せいふ はんざいしゃ
行動していた人が、政府によって犯罪者
ろう
とみなされて牢にほうりこまれ、イエス
おな せいじ はん さば
と同じように政治犯として裁かれるので
す。

わたし おな せいじ はん
私たちも、イエスと同じように政治犯
ころ おそ ひとり
として殺されることを恐れないで、一人
ひとり じんげん たいせつ しゃかい きず
一人の人間が大切にされる社会を築いて
どりょく
いこうように努力しましょう。

じゆなん しゅじつ ねん たきの
受難の主日B年（滝野）